

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	21223001	研究期間	平成21年度～平成25年度
研究課題名	国際比較のための価値・信頼・政治参加・民主主義指標の日本データ取得とその解析研究	研究代表者 (所属・職) (平成26年3月現在)	池田 謙一（同志社大学・社会学部・教授）

【平成24年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○ A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、世界的な価値観調査によって、各国の人々に同じ質問や調査を行い、価値・信頼などを国際比較して、公共性や個人意識を共通の基準で定量的に解析し、時系列的に分析することを目的として精力的に調査研究を展開してきた。その結果、震災等の影響を受けながらもほぼ当初の計画に沿った基礎的データが得られ、期待された成果が挙がりつつある。</p> <p>今後の研究の総括期には膨大な調査の統一的データ収集の確立及び比較解析を超えて、研究の理論的貢献が行われ、より充実した専門的業績が欧米研究誌に展開されることを期待する。また、研究者間のより有機的な連携を促進し、代表者のみならず研究組織全体で研究成果を挙げ、広く社会にその成果を還元することが望まれる。</p>	

【平成26年度 検証結果】

検証結果	研究進捗評価結果で見込まれたとおりの研究成果が達成された。
A	<p>当初の研究目的は、大規模な国際比較調査について、我が国の同一対象者をターゲットとしたパネル調査を行うことにより、世界規模での研究に日本としても貢献すること、さらに、日本の独自性について検証することであった。この目的は、1年目予備調査、2年目・3年目に全国パネル調査、4年目ソーシャルネットワーク調査、5年目には投票参加についてのインターネット利用調査が確実に精力的に実施され、概ね達成された。</p> <p>得られた大量の貴重なデータは、これまでに国内外の学会や論文として一部は報告されているが、まだ一部であり、今後更なる分析によって論文や学会での発表を通して、国際的にも国内的にも貢献することが期待される。</p>